

研究部ニュース 2020年度第2号

2020年12月7日(月)

発行者：研究部(松本、松田、中井、西田、大原、小森)

平素は本校の教育及び研究活動にご協力いただきありがとうございます。8月の最終週から始まったこれまでに比べて長い2学期もまもなく終了です。6月からスタートした研究活動も順調に進めています。

今回の研究部ニュースでは、ユニット研究・個人研究の進捗の報告と今年度の研究実践報告会についてお知らせいたします。

ユニット研究について

本校では学部研究(カリキュラム研究)に加えて、特別支援教育の今日的課題に対応するためにユニット研究・個人研究にも取り組んでいます。

本校の教職員と本学特別支援教育部門、美術・書道教育部門、理数情報部門、高度教職開発部門の先生方が対等な立場で共同した研究を進め、特別支援教育の発展に寄与するべく研究を進めています。現在5ユニットで研究を進めていますが、その一端をここで報告させていただきます。

ユニット	附属メンバー	共同研究者
ユニット研究	知的障害特別支援教育における感覚情報を活用した運動学習	本多、岡、丹沢、橋本、大原 村山、太田 大内田先生 岩井俊夫(前副校長)
	読み書き	白樫、森、小川、辻、中井、深草 森田アトハ(本校CSCアトハ)
	インクルーシブ教育	松田、高橋、西田、岩崎、西川 富永先生
	どろんこプロジェクト	下岡、縄、荒西 加藤・青木・谷村先生 (美術・書道教育部門)
	知的障害教育におけるプログラミング学習を通じた論理的思考の育成	保田、小森、北室、松本 仲矢先生 (理数情報部門)

1. 知的障害特別支援教育における感覚情報を活用した運動学習

障がいの有無に関わらず、縄跳びやハサミの操作等、身体の動かし方に困難を示す年齢期の子どもたちが一定の割合で見られます。知的障がいのある児童生徒に対しては、障がいの特性に応じて細かな支援や指導の方法が求められます。この研究では、生徒の身体の動きに対する教師の支援や指導の方法の改善を目的としています。

今年度は、中学部と高等部の生徒2名を対象に、運動動作の改善を図る取り組みを実施しました。よい動きの模倣を教師が見せることで身体の動かし方の変化が見られています。(執筆者：本多)



2. 知的障がいのある子どもへの認知特性に応じた読み書き指導

知的障がいのある子どもが文字の読み書きに困難を示すのは、全般的な発達水準だけでなく、「音」を聞き分けたり、形や方向を捉えたりといった「読み書きに必要な認知機能の発達」も関連していることが言われています。



[a-sa]? [ka-sa]?

認知機能にはいくつかの領域があり、一人ひとり得意・不得意の領域が違います。それぞれの得意な領域を生かし、また不得意な領域を伸ばしたり補ったりしながら、その子どもが学びやすい方法や教材で読み書き指導をしたいというのが目的です。(執筆者：白樫)

3. インクルーシブ教育

本校は教育養成大学の附属特別支援学校として、「教員志望の者の養成と教員の資質向上に貢献」することを使命の一つとしています。そこで本研究では「共に協力し、インクルーシブな教育現場を築いていくことのできる教員」を育てることを目的とし研究を進めています。

本校は「障害者の権利に関する条約」の批准（平成26年）以前より、多くの交流活動に取り組み、文部科学省の委託事業に採択される等全国への実践の発信も行っています。これまでの本校の取り組みに加え、今年度は関西のインクルーシブ教育の現状に関する調査や、大阪府の教師を対象とした質問紙調査を行いました。それらを分析し、これからの教育を担う教師の育成に寄与できるよう研究を進めています。

（執筆者：松田）

4. どんこプロジェクト



土粘土は、子どもたちの自由な手指の動きに応じて、姿かたちを変えていく魅力ある素材です。10月に白土と赤土を用いて大きな植木鉢を作ることに挑戦しました。今年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、土粘土を触ること、そのための環境設定についてメンバーで相談を重ねた上で展開しています。本学美術・書道教育部門の先生方と連携し、9月には小学部保護者15名を対象にワークショップ(小物作り)も開催しました。本研究を始めて3年。子どもたちは土粘土が大好きになり、ちぎる・握る・つく・転がす・叩く・くっつける・組み合わせで見立てる等楽しみ方も広がり、一度に取り扱う粘土の量も増えてきています。（執筆者：下岡）

5. 知的障害特別支援学校におけるプログラミング学習を活用した論理的思考の育成

今年度から小学校及び特別支援学校小学部において、プログラミング教育が必修となりました。全国的に知的障害教育においてプログラミングの実践は少なく実践事例を集積している段階ですが、本校では3年前から既に取り組んでいます。本研究ではプログラミング学習を通じた子どもたちの論理的思考の育成を目的としています。

「〇〇だから△△になる」という思考は、子どもたちの目の前で起きる事象等を考える上で大切な考え方です。これができるようにことで子どもたちの生活がより過ごしやすくなるものになると考えています。今年度からは全学部で取り組んでいますが、3学部を通したプログラミング教育のあり方も考えていきたいと考えています。（執筆者：小森）



個人研究について

学部研究・ユニット研究に加えて、個人的に追究したいテーマを定め研究に取り組んでいる教員もいます。今年度は7名が研究に取り組んでいます。音楽、描画、道徳、キャリア教育等テーマは多岐にわたっています。ユニット研究と個人研究を掛け持ちする教員もおり、意欲的に研究を進めています。月1回程度個人研究検討会を開き、研究協議を行っています。

音楽科における個のニーズに応じた補足的支援について (松田)

インクルーシブ教育が求められる現代において、音楽科は知的障害のある子どもたちとの「交流及び共同学習」の実施率が最も高いという調査結果が出ています。障害の有無や、音楽的背景に関わらず全ての子どもたちが共に学びか輝ける音楽科教育を実現するために、補足的支援の検討等から、インクルーシブ教育における指導マニュアルの作成を目指し研究を進めています。

描画による知的障がいのある児童生徒の理解と 特別支援教育への応用について（花田）

自分の気持ちを言葉で表現することが難しい知的障がいのある児童生徒の心の在り様を、描画を通して教師が児童生徒の困り感や心情の変化に気づき、個に応じた支援や指導につなげていく取り組みを実践し、その有効性について研究を進めています。

知的障害教育における 「特別の教科 道徳」の指導モデルの提案（松本）

今般の学習指導要領改訂から、小学部及び中学部で「道徳」が「特別の教科」として週1時間で必修になりました。知的障がいのある子どもたちが道徳性を習得するためにはどのような指導アプローチが相応しいか、授業分析を通して指導モデルの構築に取り組んでいます。

特別支援教育におけるダンスの有効性について（竹内）

特別支援学校では、様々な場面でダンスの取り組みが行われています。ダンスには、体力の維持・増進だけでなく、コミュニケーションや自己表現、リラクゼーション等が挙げられ、その教育的効果は身体的にも心理的にももたらされます。このようなダンスの各特性を生かした指導方法やその有効性について研究を行っています。

知的障害特別支援教育における社会的ニーズを踏まえた キャリア教育の授業づくりについて（野崎）

高等部卒業後、将来的な企業就業を実現するためにはどのような資質・能力が必要とされるのか。実際に知的障害のある支援学校卒業生を積極的に採用している企業に調査を行い、その具体的な内容を明らかにする研究を行っています。

良好な対人関係の形成に課題を持つ生徒が直面する 進路選択の支援について（迫田）

高等部卒業後の進路選択にとって大きな影響を与える要因の一つとなる対人コミュニケーションを苦手とする生徒に対する支援をキーワードとして、ASD、ADHD、DS等各障害に応じた的確な支援方法についての研究を行っています。

知的障がい児における「安心して発言・自己決定できる 環境づくり」の構築に関する研究（辻）

厚生労働省が提示している「意思決定支援ガイドライン」では、意思決定ができるような支援参加を促しています。自分のやりたいことを決定し、自分の気持ちを案じて相手に伝えることができるような支援の方法・環境づくりについての研究を行っています。

研究実践報告会について

今年度は研究発表会開催の年であり、公開授業等を行う「研究実践報告会」を2月13日（土）に実施予定でした。しかし今般の新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み、オンライン会議システム（Zoom）や本校ホームページを活用して開催となりました。公開授業等も予定しておりませんので、**13日（土）の児童生徒の登校はありません。**なお、**2月15日（月）**

は休校日として設定しておりましたので、学校もお休みとなります。

今年度は全国的にもオンラインで研究発表会をする学校園が増えてきています。本校も本学情報基盤センターと連携・協力しながら、現在研究実践報告会の実施に向けて準備を進めています。試験的運用を兼ねて、本校の研究会議や校内研修等もZoomで行っています。当日の様子については研究部ニュース第3号でお伝えいたします。



本校研究部の「ゆるキャラ」が誕生！！

本校の研究により親近感を持っていただけるために、「ゆるキャラ」をつくりました。本学のイメージキャラクターの「たまごどり」をモチーフに、高等部の辻先生に作成していただきました。

名前は「**すだるまにゃん**」です。本校の研究成果が、全国の特別支援教育に寄与していくことを願って作成しました。皆さんもどうぞお見知りおきください。

